

カトリック八尾教会ニュース

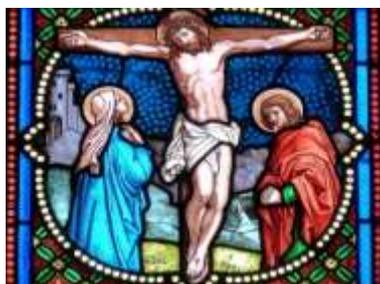


2026年3月

Tháng ba

【今月の予定】

1日(日) 四旬節第2主日



6日(金) 性虐待被害者のための祈りと償いの日

8日(日) 四旬節第3主日

15日(日) 四旬節第4主日

ベトナム語のミサ

21日(土) 初聖体勉強会

信仰講座

22日(日) 四旬節第5主日

29日(日) 受難の主日(枝の主日)

【平日のミサ】

木曜日

10:00

5日、12日、(19日、26日お休み)

※四旬節中、ミサ後に十字架の道行きを行います。

■釜ヶ崎炊き出し支援日誌(社会活動委員会) EとKより・・・2

大阪府西成区のJR環状線新今宮駅を南へ300メートルほど行った三角公園に日本最大の日雇い労働者の街、单身男性の多い簡易宿泊所(今はホテルと表示されているところが多い)があり、その名前は地図にはなく、ここに住んだ人たちによって伝えられてきた通称です。現在はあいりん地区と呼ばれています。私たちの住む南地区15教会の中に存在しています。600メートルほど東にはあべのハルカスが見え、そのギャップが強く感じられる場所です。毎土曜日に井を、各週の火曜日におにぎりの炊き出しボランティア活動をし、財源は皆様の寄付のみで賄われています。朝7時頃から(以前は5時頃から)準備をはじめ、11時30分には配食が始まります。暑い日も寒い日も炊き出しを求めて200～300人が今も並んでいます・・・続く



■春節祭(テト)がありました！2月15日(日)ベトナム語ミサ後

ベトナム旧正月のお祝い会が行われました。多くの家族が帰国する中、日本に残っているベトナム人信徒が集い、共に新年の喜びを分かち合うことができました。トゥアン神父様とチェ神父様がミサを捧げ、集いにも参加くださいました。お正月を代表する料理「バイン・チュン」も振る舞われ、カラオケやビンゴゲームを通して、大人も子どももたくさんの笑顔に包まれました。八尾教会で共に集まり、笑顔で新年を迎えられたことは、皆にとって大きな喜びでした。新しい一年が、皆さまにとって健康と祝福に満ちたものとなりますように・・・



■2026年四旬節愛のキャンペーン

『あなたがたに平和があるように』(ヨハネ 20. 19)



四旬節「愛の献金」は、国内外で困難に直面している方々のために、カリタスジャパンが行う支援活動に使われます。この献金は、愛の行いにより、イエスのみ心と一致していく営みそのものです。カリタスジャパンが行う、困難の中に生きる人々のための活動は、献金する人と、困難の中に生きる人々が、イエスのみ心と一致して愛のうちにともに歩む行動なのです。

この四旬節の間、私たちを通して働かれる主に信頼し、愛の行いに努めて参りましょう。➡配布している献金袋をご使用下さい。(中央協議会より)

いませかい
今世界は、

チェ ジュヨンしんが
崔 周永神父

世界が激しい変化の最中にある。と思ってしまうのだ。AIを始めとする技術革新が既存のデジタル技術と融合して何処まで進むか先も見えないし、NATO という体制で保たれてきた国際秩序は崩れつつあるため、ヨーロッパは脱アメリカ政策に本格的に取り組んでいる。その背景には中国の台頭によるアメリカの牽制が見え見えの上、アメリカ自体が自ら築いてきた秩序破壊に夢中なので、世界の主な国々は「脱ドル化」の推進や金(ゴールド)の保有増加、米国からの「技術・産業デカップリング」、それに、貿易の多角化(米国以外の貿易相手の選定)を積極的に行っている。

もう国際社会を一つにまとめていたルールなんか微塵も残ってない。という印象さえある。今の激しい情勢変化の根底には、グローバル規模で広がっている右翼化の流れが横たわっている。ヨーロッパでの右翼政党やその支持勢力が増していくのは勿論、トランプ政権を揺るぎなく支持している多くのアメリカ人達、日本内も徐々に力を増していく右翼の主張など。

人間という存在をそんなに信じてない自分がある。何故なら、人類の歴史は長い戦争の時期と短い平和、その繰り返しだから。もう既に今の世界はとっくに平和の状況ではなくなっている。

国というものは、人間の本能と欲望とを忠実に反映したメカニズムのような気がしてやまない。

普段、平和を唄っていた人々が国旗の下で肩を組んで喜んで兵士になっていくのも決して稀ではない。国の為という盲目的な宣伝に眼をつぶって飛び込んでしまう。それほど、一つの間人集団は国という名でいざとなった時、己を失い巨大な集団の猛烈な勢いに身を任しがちなのだ。

各種の SNS やインターネットによる情報交換の活発が、人間集団の間に起こり得る、いや、既に起こっている紛争への抑止力になり得るかという、恐らく、国のプロパガンダには勝てない可能性が高い。何故なら、国の裏には、普段は出さずに眠っている人間達の生々しい欲望が根強く巣くっているからだ。相手の集団を武力を使って従わせたいという原始の欲望、気に食わない奴の顔に気持ちよく一発くらわしてやりたいといった暴力性を存分に満たしてくれるからだ。そして、国の裏に隠れては逃げれるからだ。

教会はこういう時代に何をすべきなのか。其処のメンバである私たちはどのような態度を取り、ますます激しさを増していく、今の流れに何をもって対応していくのだろう。政治の営みが洗練された巧みな言葉のやり取りから、巷の下劣な暴言の飛び交う道端のようになった今、言葉の宗教であるキリスト教、取り分け、カトリック教会は神様の命のみ言葉、その力を信じ切るしかない。それを身をもって生きるのみである。

そういった意味で迫害の時代が来るであろう。という気がしてやまない。

